

明けましておめでとうございます。

本年が皆様にとりまして、希望に満ちた一年になりますよう心よりお祈り申し上げます。

私は、昨年11月に開かれた臨時議員総会において、神戸商工会議所の第32代会頭に選任されました。会員の皆様のご理解とご支援を得て、職責を全うして参りたいと存じますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

足元、私たちを取り巻く環境には、大変厳しいものがあります。コロナ禍の影響はもとより、複合的な要因による物価高やエネルギー価格高騰、円安の進展に加え、国や地方の成長力を削ぐ人口減少という構造的な問題を抱えています。

とりわけ、神戸経済においては、生産年齢人口の減少、特に将来を担う若者層の流出に大きな危機感を抱いているところです。

神戸商工会議所の普遍的な使命は、中小企業の支援と地域経済の活性化であり、神戸の企業が元気になることにより、まちや経済全体の活力に繋がるものと考えます。それが、人や企業をこの神戸に惹きつける原動力となります。そのための支援策や産業政策、都市政策を選択し、実行に移すことこそが求められる役割であり、その認識のもと、次に掲げる3つの課題に取り組んで参ります。

第一は、「**中小企業の持続的発展への支援**」です。

業種業態を問わず、多くの中小企業が資源・原材料価格や輸送コスト高騰の影響を受け、加えて価格転嫁にも苦慮、

また、受注面でコロナ禍前の水準に戻らず、ゼロゼロ融資の返済が本格化する、厳しい状況下にあります。

資金繰り支援はもとより、価格転嫁の後押し、企業再生・事業承継の支援など、あらゆる施策を総動員し、事業継続を支えるべく、関係機関と連携の下、そのサポートに全力を尽くす考えであります。

しかし、我慢して耐え忍べば経営環境は変わるのか、この見通しは極めて不透明です。たとえ苦境が続いたとしても、先に述べた通り、私たちは神戸のために元気になる必要があり、変化を恐れず、挑戦せねばなりません。

変化・変革は、もしもその結果が悪ければ、との恐怖心がわけば、あえて変化しなくてもよい、現状維持でよいと考えがちかもしれませんが、このコロナ禍の変化を捉え、新しいビジネスに挑戦する中小企業も少なくありません。

商工会議所は、これまでも伴走型の経営支援や多様なビジネスマッチング事業を通じて、取り組みを支えてきましたが、改めて中小企業の会員の皆様の現場の声をできるだけ多くお聞きし、新たな挑戦、持続的な発展に向けて力を尽くして参りたいと考えています。

第二は、「**神戸の産業集積を生かした新たな価値創造**」です。

神戸には、技術力のあるものづくり産業や、ブランド力のある生活文化産業はじめ、多様かつ魅力的な産業集積があります。

しかし、事実として若者層の神戸離れは続いており、今もこれからも人材の確保が極めて大きな経営課題となります。生産年齢人口の減少、インフレによる賃金上昇の圧力

により、人材確保の難しさは続くとみなければなりません。

一方で、生産性向上は待たなしであり、そのためのデジタル技術の活用は益々重要になります。加えて、社会課題解決に関心を寄せる若い世代が増える中、2030年のSDGs、2050年のカーボンニュートラルという世界的な目標を経営に組み込むことも重要です。そのためには、新しい視点をもったスタートアップとの連携も有効な手法になります。

こうした取り組みは、国内外問わず、多くの企業がこぞって進めるものですが、神戸が育んできた独自の産業集積と掛け合わせることで、新しい価値を生み出し、そのことが産業構造の転換を促し、ひいては若年層をはじめ多様な人材を呼び込むことに繋がると考えます。

これを具体的に進めるためにも、DXやGX、さらにスタートアップとの連携などを促進する事業をより積極的に展開し、神戸の産業の新たな価値創造に繋げたいと思います。

第三は、「**2030年をゴールと捉えた都市機能強化**」です。

人や企業が増えて神戸が元気になる。そのために、2030年をゴールに据え、都市機能の充実、人や企業の誘致に全力を尽くし、実現させたいと考えます。

フォローアップの一つは、大阪・関西万博。さらに一つは、神戸空港の国際化です。とりわけ、神戸空港については、2025年の国際チャーター便就航を第一ステップとし、さらに2030年前後の国際定期便就航を確実なものとするためには、まちや産業の力を高め、新たな需要を生み出していくことが不可欠です。

万博や空港国際化までも、世界パラ陸上競技選手権大会の開催、須磨海岸の再整備、ウォーターフロントのアリーナ開設など、神戸の魅力発信に繋がる新たな動きが続きます。

これらの動きを生かし、「**行ってみたい、住んでみたい、働いてみたい**」と、もっと思ってもらえる神戸に変えていくためにも、様々な重要プロジェクトを着実に進めていくことが重要です。

三宮や新神戸駅前の再整備、大阪湾岸道路西伸部、神戸医療産業都市など現在進行形のプロジェクトを確実に進行させ、さらに、水素スマートシティ構想の具現化、神戸独自の観光資源の再整備、これらを繋ぐ、南北アクセスの強化策を具体化のステージへ引き上げることが強く求められます。

商工会議所の中だけでなく、神戸市や兵庫県、大阪・京都を含めた関西経済圏との連携をとり、提案型・実行型の姿勢で、ともに前に推し進めていきたいと思えます。

ラグビーのチームプレイ精神を表す、有名な言葉に「One for all, All for one」があります。3つの課題対応には、この精神を大切に臨む所存です。

神戸商工会議所の会員はじめ、関係の皆様全員とスクラムを組み、一歩先を行く元気な神戸になるとの目標のために、総力を挙げて取り組んで参りますので、本年も何卒、皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

年頭所感

一歩先を行く元気な神戸へ One for all, All for one

神戸商工会議所 会頭
川崎博也

